

大道芸アジア月報 2025 年 4 月

vol. 37, no. 4

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>

■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>

■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>

■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>

■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、） <http://daidoge.jp/>

■中部大道芸ネットワーク <https://www.facebook.com/mrkrddg>

■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

■東京都ヘブナーアーティスト（「東京都文化スポーツ局—文化振興」で検索）

★今月の大道芸公演

△たてもの園フェスティバル 2025 https://www.tatemonoen.jp/event/page/2025_festival.php ○江戸東京たてもの園（小金井市）

●3月29（土）30（日）

ヘヴンアーティストを楽しもう 【出演】komatan、Shiva

△アークヒルズさくらまつり 2025 <https://www.arkhills.com/events/2025/03/0145.html> ○アークヒルズ カラヤン広場

●3月29（土）15:00～15:30 / 16:30～17:00

ゼロコ

△光が丘つながり大道芸 <https://cbf.beyond-japan.net/information.html> ○練馬・光が丘公園

●3月29（土）30（日）

（3/29、3/30）鷹島姫乃、結城敬介、ペインター、なにみてるの、座る男

（3/29のみ）パフォーマーYUKI、ゆーだま、招福、レプリカさん、ドール Dollothy

（3/30のみ）ドラマチック・ガマン、エキセントリック吉田、クッピー、紫穂、CLOWN BELLA

△北区さくら SAKA-SO まつり <https://sakurasakaso6.webnode.jp/> ○北区・飛鳥山公園

●3月29（土）30（日）

YO-YO Entertainer TOMMY、三雲いおり、ドラマチック・ガマン、小林智裕

△廿日会祭大道芸 <https://www.asovivatheater.com/2024> ○静岡市 浅間神社 or あそ viva 劇場

●4月2（水）～5（土）

△第71回全日本チンドンコンクール https://www.ccis-toyama.or.jp/toyama/articles/chindon/articles_2246/ ○富山県民会館ほか

●4月4（金）～6（日）

プロチンドンコンクール、素人チンドンコンクール

△六本木ヒルズ春まつり（和舞台） <https://www.roppongihills.com/events/2025/04/0419.html> ○六本木ヒルズアリーナ

●4月5（土）6（日）

（4/5）13:45～14:15 伊藤祐介 （4/6）15:00～15:30 こまたん

△日本大道芸フェス in 津山さくらまつり <https://tsuyama.daidougei.net/> ○岡山県津山市・津山城（鶴山公園）

●4月5（土）6（日）10:00頃から ※ナイトショーあり

アスタリスクノヴァ、izuma、加納真実、桔梗ブラザーズ、Performer SYO!、吉川建斗、りずむらいす、Ray

△第13回 モリコロパーク大道芸フェスティバル 2025 ○愛知県長久手市・愛・地球博記念公園

●4月5（土）6（日）

ArtistaKAZU、あいあい（13日のみ）、石水タキキ、idio2、えいじ、Entertainer Hi2、オマールえび、おんぷらんと、くす田くす博、Kei、

けん玉パフォーマーたいが、こ～すけ、後藤凌（Ryo）、komatan、じゃぐたく、ジャグリングドラゴン ヒョウガ、松鶴家天太（13日のみ）

SHANTI&MARINO（12日のみ）、ジョー次、すごろく、物語人、スマイルパフォーマーQちゃん、ZEN、ダンディふくちゃん、TeTe、

ドラマチック・ガマン、ハットマン PepE（13日のみ）、パフォーマーASUKA、パフォーマーストリオ CZ↑、ブンブク、Box Theater HANE、

豊来家幸輝（12日のみ）、Box performer まさきち、MAGICIAN HIROSHI、マスター、三雲いおり、ミコアボコ（12日のみ）、ものまる、

Yo-Yo Entertainer TOMMY、リューサー、Rei Iwakura

【スタチュー】アストロノーツ、Creator CHIKI、Statue KaI、魔石像 WIZARD 【ロービング】おもちゃのあひるパト、shino

【ライブペイント】アートパフォーマー★ファイター★、中村友美 【バルーンアート実演販売】てりやき

△エンターテインメント亀戸!vol.24 https://www.kameidodaidoge.com/#google_vignette ○江東区亀戸十三間通り商店街

●4月13(日)

てのひら、おとちゃん、小林智裕、GAKU、川のほとり倶楽部、しろみときみ、ハードパンチャーしんのすけ

△第50回野毛大道芸 <https://nogedaidoge.com> ○横浜市野毛地区・日の出地区

●4月19(土) 20(日)

SAME SAME、加納真実、シルヴプレ、張海輪 中国雑技団、to R mansion、Ballon Syotaro、ケチャップリンたび彦、ヘルシー松田、ヴィザン・林、SEOPPI、長岡岳大、山本光洋、ユキンコアキラ、アンティークドール リリー、りずむらいず、Mr. BUNBUN、SEOPPI&長岡岳大、火付盗賊/FIREBANDIT(土のみ)、めりこ、Amphisbaena、アスタリスクノヴァ、チルクアビー、クラウンしほちゃん、油布直輝、目黒陽介&イーガル、クラウンジュカ、Juggler Laby、吉川健斗、猫のアーサー、チムチムサービス、黄金野球像(日のみ)、カナルペキノワ(日のみ)、エビリリ、マスクマスクマンマン(土のみ)、ジェンガ金次郎、油井ジョージ ワンマンバンド、シグモイド、リオさんのバルーンショップ、タカパーチ、しろみときみ、ガンジスインダストードガス(土のみ)、アストロノーツ、占術師団 透視眼鏡、【野毛大道芸スペシャル】瀬戸内サーカスファクトリー(吉田亜希/谷口界/長谷川愛実/野瀬山瑞希/吉川健斗/本田雅治)、

△第50回野毛大道芸記念・にぎわい座スペシャルステージ <https://nogedaidoge.com/archives/1344> ○にぎわい座芸能ホール

●4月19(土) 16:30 / 20(日) 11:30&15:30

桜小路富士丸、KANA∞、目黒宏次郎、桔梗ブラザーズ、ゼロコ

¥1500

問合せ: 045-262-1234 野毛大道芸実行委員会

△第50回野毛大道芸記念・目黒陽介一座 ジャグリングの現在 <https://nogedaidoge.com/archives/1344> ○にぎわい座のげシャレー

●4月19(土) 14:00&19:00 / 20(日) 13:00&17:00

ながめくらしつ(目黒陽介、森田智博、山村祐理)、サクノキ、大橋昂汰、高橋優弘、イーガル、ちょろすけ、ハタダ、うず、鈴木 仁、

¥1500

問合せ: 045-262-1234 野毛大道芸実行委員会

△第8回多治見大道芸見本市 2025 <https://tajimidaidoge.jimdofree.com/> ○岐阜県多治見市、多治見駅ほか

●4月19(土) 20(日)

アートパフォーマー☆ファイター☆、aicon、エクストリーム芹川、オマールえび、片腕のマジシャン HAKU、'97、くす田くす博、工藤正景、後藤凌(Ryo)、komatan、催眠術師じゅんいち、さくら組、サンキュー手塚、C.C、笑福亭鶴笑一座、すごろく、大道芸人ぼびー、#大道芸人ジーニー、大道芸人ちんねん、Tapulse、徳川亮祐、中村友美、なにみてるの、ハットマンPepE、パフォーマーえはら、HOOPER MAEP、豊来家幸輝、Box performer まさきち、三雲いおり、ミコアポコ、Rei Iwakura

△第31回深川美楽市 <https://www.birakuichi.com/> ○江東区深川資料館通り

●4月20(日)

△第17回高円寺びっくり大道芸 2025 <https://www.koen-ji-daidoge.com/2025/> ○JR 高円寺駅周辺

●4月26(土) 27(日)

若林正の

食って極楽

たまには豪華に！

蔵「山あつ」

こんな連載をやっていると「グルメだね～」なんて思われるかも知れないが(思わないか)、ワタクシはグルメ=美食家ではなくて、グルマン=大食家なのだ。フレンチやら天麩羅やら高級な店は性に合わないし懐が持たない。元々安くて腹一杯になればよしという貧乏性なので、この頃は専らラーメンやお得なランチが中心だ。そこで地元の和食ランチをご紹介します。

家から徒歩圏内だが小綺麗な料理屋で、これまで食べる機会が無かった。高そうだから、だが…。しかし先日女房と散歩で近くを通りかかり、清水の舞台から飛び降りる覚悟で初入店。店内はこじんまりとカウンターと小卓が四つほど。夫婦でやっているみたいで、愛想良い対応は気持ちいい。5食限定の街道御膳が良いかと思ったが、すでに売り切れ。先客四人いたが全員これを頼んでいるみたい、残念。そこで私は織姫御膳¥1800 女房は天井とミニ蕎麦¥1800、うむ飛び降りた。出てきた御膳、さすが和食屋で盛り付けが丁寧。量的に物足りないかと思いきや、ご飯はお代わり自由とはうれしやな。



お味は薄味ながらも美味で、メジナと平目の刺身も新鮮。煮物は上品だが旨味があり、どれもひと手間かけてある感じ。お値段以上に満足した。女房の天麩羅も少し分けてもらったがイイ感じ。やはり少し高くても良いものは良いなと改めて思ったのでした。
○そうそう行けない度=7ワカ

愚人列伝

上島敏昭

○福の神・仙台四郎

岩本素白の「愚人」について、まだ考えている。

たとえば仙台四郎などは愚人の代表だろう。人間ポンプの安田里美さんの見世物小屋に通っているころ、寝小屋を訪ねると、テントの一番奥に神棚が設えられていて、そこに大神宮様や神農様の御札と一緒に祀りされていたのが、仙台四郎の写真だった。彼については多くの人が書き留めていて、いろいろな資料が残っている。水木しげるも神秘家列伝シリーズに取り上げて、「仙台四郎」と題した伝記漫画をかいているし、岡本かの子も「みちのく」（昭和 12 年）という作品で、かつて四郎と親しかったとされる女性と会った話を書いている。



ただし、幕末から明治にかけて実在したという以上は不確実というのが本当のところらしい。安政元年（1855）生まれともいわれるが、明治 35 年（1902）・須賀川で没・享年四七という説から逆算したもののようだ。安田里美さんの小屋の神棚に祀られていたこの写真は、四郎が 30 歳ごろの肖像で、商売繁盛の神さまといわれていた。1990 年ごろ、この写真を商店や食堂など店に飾って商売繁盛を願うのが日本中のブームになったから、覚

えている人も多いだろう。仙台の愚人が全国的になったのだ。その後も『福の神になった少年 仙台四郎の物語』（丘修三作、佼成出版社刊、1997 年）というこども向けの文藝作品が出版されているから、まだまだ彼の人気は高い。

いわゆる障害児で、生れつきの知恵遅れとも、7 歳ごろ事故で脳に傷害を負ったともいわれるが、体が大きく丈夫で、いつもにこやかでおとなしく、町じゅうを歩き回っていたとされる。「しろばか」というのが彼のあだ名だったし、子どもたちの嘲りの対象でもあったが、ただ単に「ばかにしている」というより、ある意味、人気者でもあったのだ。

彼は、気に入った家には毎日出かけていく癖があり、店の前を掃除したりする。それでその店では飯を食わせたりもした。どこの店にでも行くわけではない。素白が紹介した「お神楽庄さん」が、どこの神社で何日に神楽があると告げに訪れたのが、有名な老舗だけに限られたのに通じる。その老舗では必ず何がしかの銭を与えた。それを素白は「まことに徳な物の貰い方」「利口者の嫌いな神様は、神楽の好きな庄さんを憫んで、こうした割の良い株をお授け下すった」と書くが、四郎の場合はさらにパワーアップしていて、彼が通う店は必ず繁盛すると評判になり、「福の神」と呼ばれるようになった。

すると彼を招く店も現れたが、彼の気に沿わなければ知らん顔して通り過ぎてしまう。ひとの思い通りにはならない。人々の欲得の観念とは無縁、超然としたところが人びとの心に刺さったのだろう。拾った犬を可愛がっていつも連れて歩いたともいうが、前記の『福の神になった少年』では、西南戦争で敗れた薩摩人の囚人の目を通して、西郷隆盛の姿と重ねている。幕末から明治初年の激動期を、時代の流れとは無縁に、ふらふらと町を歩いた姿は、北村皆雄監督が映画「ほかいびと」で紹介した、信州の俳句読み井上井月とも通じる。そういえば井月が書いた俳句の短冊も養蚕の御札とされていた。

○芸能の目利き・浅草キヨシ

仙台四郎ほどではないが浅草キヨシもよく知られている。小沢昭一さんの主宰した劇団「芸能座」では芝居にして小沢さんがキヨシに扮している。題して「浅草キヨシ伝 強いばかりが男じゃないといつか教えてくれたひと」。芸能座第 6 回公演。1977 年 10 月新宿・紀伊国屋ホールで初演。たしか浅草公会堂でも公演した。



キヨシは伝説的な乞食で、彼が目をつけたストリッパーは必ずスターになると言われていた。やはりある意味、福の神である。作者は井上ひさし。井上は浅草のストリップ劇場「フランス座」の座付き作者だったから浅草には詳しい。この芝居の前にも、キヨシをモデルにして小説「イサムよりよろしく」を書いている。わたしは 1980 年代、浅草・木馬亭で仕事をしており、そのころも話題になることがあったが、残念ながら私は会ったことがない。「最近、キヨシのヤロー見かけねえなあ」と木馬亭の呼込み名人だった菅谷さんが言っていたのは覚えている。

この芝居はへんな芝居で、ストーリーらしいストーリーはなく、ひたすら浅草に縁の深い人物たち（永井荷風、川端康成、王貞治、高村光太郎など）が独白、もしくは対談のようなことをする。小沢昭一役の人物もいて、その小沢のセリフで、キヨシおよびこの芝居について、こう語っている。

「この芝居が扱うのはキヨシという



浅草の風来坊「キヨシ」に扮した僕(左)とキヨシさん本人。東京・新宿の紀伊國屋ホールにて。撮影・鶴田照夫

名前と呼ばれている、浅草周辺をふわふわと浮草よろしく生きる浮浪者の一生です。もっともキヨシ氏は頭がちよっと弱く彼の記憶はほとんどあてになりませんので、この浅草の名物男の生涯はひとびとの証言を綴り合わせて見当をつけるほかないのです」

このセリフの通り、芝居のすべてが何かからの引用であって、ご丁寧にその引用文献のタイトルを読み上げるだけの役もあった。私が強烈に覚えているのは、キヨシが誰かと貧しい食事をするシーンと昭和天皇が缶詰を食べるシーン。さすがに天皇と浅草の乞食とイメージを重ねたらまずいのでは？ と思った。

演劇評論家の扇田昭彦は〈浅草の盛衰をつぶさに見てきたキヨシを中心に、東京の中心的な盛り場からはじき出されていった浅草の軌跡と、浅草を中心的な盛り場から周辺の地位に追いやっていった日本の近代から戦後に至る歩みとを、多くの資料を再構成するなかで、重層的にとらえなおそうとした〉作品と述べている(『井上ひさし全芝居 その二』新潮社、1983年)。

『週刊朝日』1977年9月9日号には、キヨシのインタビュー記事が載っている。ちなみに、この記事も芝居では引用されている。それによれば、大正10年、大分県生まれで、当時は酒場の早朝清掃(日当二千元)が生業と

ある。もっとも本名も明かしていないし、どこまでホントか…。いずれにしても小屋の掃除などをして口を糊する一方、舞台や楽屋をのぞいてはあれこれ批評を述べるが、それが正鵠を得ていて、いつしか「彼が折り紙を付けた芸人は必ず出世する」という噂がたったということらしい。1981年12月2日の読売新聞に「帰ってきたキヨシ六区の人たちなぜか「ホッ」」という記事が出ているが、その後は不明。

○つながり乞食

小沢昭一さんがらみでもう一人とかひと組、「つながり乞食」もこの系統に含まれると思うので記しておきたい。小沢昭一夫人・英子さんの次のような文章を読んでいたきたい。

「——年をとったら、オマエさんと二人して、つながり乞食になって暮らそうなあ——

私の旦那サマの幼なかりし頃、東京の蒲田に、夫婦がお互いの腰を綱で結び合い、仲良く繋がって歩くお乞食さんがいたとかで、そのようにいつかはなりたいたいという昭一青年の言葉。こんな殺し文句にもならない変な話に感激したオボコムスメのわたしは、もう今から十八年前、わがテキ二十六歳、わたし二十二歳に、「この浦舟に帆を揚げ、たのである。」(『小沢昭一百景随筆選集 6 なぜか今宵もああ更けてゆく』晶文社、2004年)

つまりプロポーズの言葉が、「つながり乞食になろう」だったというのだ。してみると、この乞食は縁結びの神なのかもしれない。

これについてはグラフィックデザイナーの栗津潔が『月刊世界政経』1975年8月号に小文を書いている。それによれば彼らを見かけたのは、昭和12年頃、目黒から蒲田、大森にかけてで、「二人の黒い塊のような人間が、それぞれ縄で結われて、ふらふら歩いていた」のだという。その話を小沢昭一さんに話したところ、それを芝居にしたいと言いつし、さらにラジオで発表したところ、百数十通の投書が

あった。

「それを読んで面白いのは、百人百様の記憶の差違である。丁寧な人は、地図入で乞食が歩いたところを記し、小学校付近が多いことを推理したり、フィクションめいた劇作を、すでにやっているような傾向のものまである。説話はこんなふうにつくられてきたのだろう。」とある。

なるほど、そのとおりかもしれない。仙台四郎も浅草キヨシも、実在の人物からはかけはなれて、虚像が一人歩きしていった面は大きいだろう。四郎もキヨシも、普通の社会人とは違う現実を生きているようにみえる。これはうらやましい存在だ。四郎とキヨシの二人は、それぞれ仙台、浅草という街、ある意味、閉じられた街の住人であり、その街が彼らの宇宙だ。ひとびとは四郎やキヨシの姿に、古き良き時代の仙台あるいは浅草という世界を見ていたのだと思う。

それに対して、つながり乞食は、けっこう広い地域を歩きまわっている。この違いは二人とは異なる虚像を結ぶのか。栗津は次のように続ける。

「つながり乞食は【つなぎ乞食・夫婦乞食・新婚乞食・殿様乞食】などとよばれた。年代や地域によって違うが、ほとんどの投書から気品のある大男、女は小柄であった。」「元は学校長であったのが気が狂った」というのが多かったという。また、栗津は別の文章で彼らは「あまり物乞いをしないし、気ぐらいの高い乞食であった」とも「偉いおかたであったけれど、という注釈付きの乞食である」とも書いている。そして二人を結んでいた縄のイメージが、恐ろしい印象として残っていて、〈これが初めに見つめた、世間という窓の外の地獄であったかもしれない。〉としている。

仙台四郎も浅草キヨシも、どちらかといえば滑稽さが表に出ているが、栗津はつながり乞食には不気味さや怖さのような面をみている。こちら芝居にならなかったのは残念だが、栗津がちらりと見た地獄が、どんな世界だったのか、知りたいと思う。